

学力向上

<1 テーマ>	<3 成果指標と実績>			
多様な学力層の生徒に対する効果的な指導の在り方と教職員の指導力向上	成果指標	初期値	目標値	実績（評価）
<2 取組方法>	①授業への取組 2年	34.1%	38.0%	()
●主な取組	1年	37.0%	38.0%	()
1 生徒の学力向上	①平日学習時間 2年	1.3h	1.5h	()
(1) 外部機関との連携	1年	1.4h	1.5h	()
・大学教授による出張講義	①休日学習時間 2年	2.0h	2.5h	()
・東京研修（1年全員、1泊2日）	1年	2.1h	2.2h	()
(2) 連携型探究活動	③授業で力が	7.0%	10.0%	()
・静岡理工科大教授との共同研究	ついた実感	4.3%	6.0%	()
(3) 理数科生徒による小・中学生対象科学教室	①国公立大学の受験者数	58人	60人	()
(4) 地域研究冊子「伊豆ぶっく」の作成、発行	②外部との連携による探	21人	25人	()
(5) 各種補講等の実施	究活動への参加生徒数	487人	490人	()
2 教員の指導力向上	②大学進学を目的とした	35人	40人	()
(1) 産業能率大学教授による「主体的学習者育	補習等への参加生徒数	17人	20人	()
成プログラム」に関する研修	③国公立大学の合格者数	80人	90人	()
(2) 予備校等が主催する研修プログラムへの参	①公立短大、医療系専門	17人	20人	()
加	学校受験者数	80人	90人	()
3 高大接続改革への対応	①センター5-7型、共通	17人	20人	()
・e-ポートフォリオ対応システムの導入とその	テスト受験者数	17人	20人	()
利活用	③公立短大、看護系専門	17人	20人	()
	学校合格者数	17人	20人	()

<4 特徴的な取組>

■大学教授による出張講義

【概要】

2年生を対象としたガイダンスの一環として実施。大学教授から直接講義を受けることで、今後の学習に対する取組を具体化させ、充実させる。

【来校大学（学部等）】

静岡大学（教育）、静岡県立大学（看護・国際関係）、宇都宮大学（農）、山形大学（理）、筑波大学（人文社会）



■東京研修

【概要】

1年生全員参加（1泊2日）のプログラム。地元では体験できない上級学校や研究施設、一流企業を見学することにより、自己の在り方を考え、主体的、意欲的に学校生活を送る契機とする。

【主な研修先】

東京大学、東京工業大学、東京海洋大学、早稲田大学、法政大学、明星大学、特許庁、Google、東武トップツアーズ、JICA、TBS、博報堂、朝日新聞、アイザワ証券、東京証券取引所、パナソニックセンター、キャノンITソリューションズ



■連携型探究活動

【概要】

静岡理科大学教授（航空工学）の指導の下、静岡県事業「次世代無人航空開発・実証業務」の成果等も踏まえ、①「航空宇宙の原理で作動する工芸品の仕組み解明」②「無人航空機による下田の物流の活性化」について研究を進めている。

高校生にとっては、大学での学びに直結する研究スキルの習得、進路意識及び学習意欲の高揚を図ることができるものとなっている。又、工学的な視点に加え、物流を通して見た地域学としての側面を併せ持ち、これから学習の広がりが期待できる。



■地域研究冊子「伊豆ぶっく」

【概要】

現在第3号まで発行。16ページのカラー版冊子。「地域を知る」ことをテーマに、地元の高校生が自分たちの視点で取材、編集するという大きな特長としている。

これまで、伊豆のキャラクター、食材、観光スポット、ジオパーク、文化財等の記事を掲載。地域の関係者からも評価していただいている。



<5 成果と今後の方向性>

中山間地であるため、個人単位ではなかなか困難な体験を、大学・予備校の出張講義や東京研修等によってできることは、生徒にとって有益な知的刺激となっている。身をもって体験することで、それまでの曖昧とした考えが明確で具体的な目的意識となり、学習意欲の向上につながっている。今後は、それが「成果指標と実績」に結びついていくかどうかを検証したい。

教員の資質向上については、高大接続改革、新学習指導要領施行への対応を含め、研修を進めるとともに、地域的にますます多様化する生徒に対する指導の在り方を模索していきたい。

< 1 テーマ >	< 3 成果指標と実績 >			
ICTと国際交流を掛け合わせた、新たな時代に対応できるグローバル・グローバル人材の育成	成果指標	初期値	目標値	実績（評価）
	①授業への取組 2年	36.4	38	()
	1年	35.6	37	()
	①平日学習時間 2年	1.06	1.4	()
	1年	1.29	1.4	()
< 2 取組方法 >	①休日学習時間 2年	1.18	1.4	()
・管理職、教員、事務職員からなる三島南戦略会議	1年	1.29	1.4	()
・スタディクラブの効果的運用	③授業で力が 2年	17.9	20	()
・浙江省麗水市の高校との相互派遣	ついた実感 1年	16.5	18	()
・浙江省麗水市の高校とのICTを活用した交流	①国公立大学の受験者数	31	40	()
・生徒の大学見学	②外部との連携による探究活動等への参加生徒数	34	40	()
・ICTを活用した授業展開の研究・推進	③国公立大学の合格者数	13	20	()
・浙江省麗水市の高校と連携したICT教材活用の研究				()
・Classiを用いた教職員間のコミュニケーションの促進	ICTで表現力がついた実感 2年・1年		20 18	() ()
・先進校視察・大学視察	学習意欲が高まった実感 2年・1年		38 37	() ()
・ICTを活かした表現力の育成および主体性の涵養	GETC・A2以上 2年		45	()
・浙江省麗水市の高校との交流を通して多様な経験を活かした表現力・主体性の涵養	・1年		30	()
・生徒・教員アンケートおよびGTEC実施	海外研修に関心がある 2年・1年		50 40	() ()
・ICTを活用した業務改善・効率化				
・進路講演会の開催				

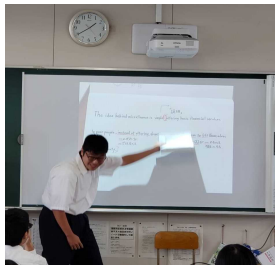
< 5 成果と今後の方向性 >

三南戦略委員会主導により、100周年記念事業による電子黒板機能付プロジェクターの設置も8月に完了し、2学期から運用を開始した。ICT活用授業アンケートの結果からも教職員のICT活用力向上が課題であり、ICTを活用したアクティブラーニング型・探究型の更なる授業改善を進めていく。

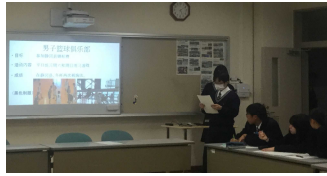
中国交流も生徒15名、同窓会役員を含む引率5名により12月に麗水学院訪問を行い、今後の相互交流の起点とする。合わせてICT先進校としても教職員間の授業交流等も進めていく。これら2つの事業の推進に際し、県内外の先進校事例を積極的に収集し取り入れていく。さらに、探究学習推進委員会を設置し、総合的な探究の時間を核とした総合的、教科横断的活動を通して本校の新たな魅力づくり、100周年を越えた将来像の検討・共有を進めていく。

< 4 特徴的な取組 >

(拡散・発展) 【生徒による活動・発信】



【表現力育成 (ICT活用)】
生徒グループ発表授業



【中国交流事前研修】
麗水学院での学校・三島市・静岡県・日本の紹介
に向け事前準備



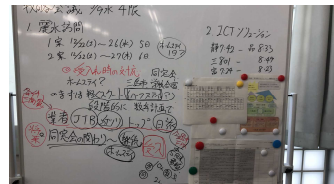
【スタディクラブ大学訪問】
学習・進路意識の涵養
早稲田大学・法政大学訪問

(集約・深化) 【戦略会議・探究学習推進会議】

- 三島南「夢実現プロジェクト」(国際交流×ICT)推進
- 100周年を越えての将来像(ビジョン)の検討・共有



【会議場】
職員室内起立形式



【会議ホワイトボード】
会議意見集約・議事録

(収集・研究) 【先進校視察・研修会】



【先進校視察(鳥取県)】
ICT機器の管理・活用



【ICTソリューション】
教育ICT活用の最前線

< 5 成果と今後の方向性 >

三南戦略委員会主導により、100周年記念事業による電子黒板機能付プロジェクターの設置も8月に完了し、2学期から運用を開始した。ICT活用授業アンケートの結果からも教職員のICT活用力向上が課題であり、ICTを活用したアクティブラーニング型・探究型の更なる授業改善を進めていく。

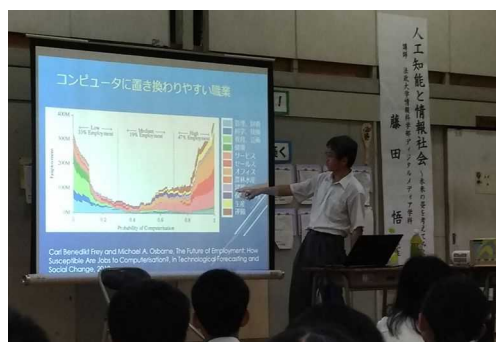
中国交流も生徒15名、同窓会役員を含む引率5名により12月に麗水学院訪問を行い、今後の相互交流の起点とする。合わせてICT先進校としても教職員間の授業交流等も進めていく。これら2つの事業の推進に際し、県内外の先進校事例を積極的に収集し取り入れていく。さらに、探究学習推進委員会を設置し、総合的な探究の時間を核とした総合的、教科横断的活動を通して本校の新たな魅力づくり、100周年を越えた将来像の検討・共有を進めていく。

<p><1 テーマ></p> <p style="text-align: center;">富士東高校教育改革対応プロジェクト</p> <p style="text-align: center;">～実力を伸ばす～</p>	<p><3 成果指標と実績></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>成果指標</th> <th>初期値</th> <th>目標値</th> <th>実績（評価）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①授業への取組 2年</td> <td>23.0%</td> <td>25%</td> <td>—（）</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>30.6%</td> <td>32%</td> <td>—（）</td> </tr> <tr> <td>①平日学習時間 2年</td> <td>1.16h</td> <td>1.5h</td> <td>—（）</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>1.51h</td> <td>1.8h</td> <td>—（）</td> </tr> <tr> <td>①休日学習時間 2年</td> <td>2.15h</td> <td>2.5h</td> <td>—（）</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>2.63h</td> <td>2.8h</td> <td>—（）</td> </tr> <tr> <td>③授業で力が 2年</td> <td>6.7%</td> <td>7.0%</td> <td>—（）</td> </tr> <tr> <td>ついた実感 1年</td> <td>5.6%</td> <td>6.0%</td> <td>—（）</td> </tr> <tr> <td>①国公立大学の受験者数</td> <td>155人／267人</td> <td>160人／273人</td> <td>—（）</td> </tr> <tr> <td>②外部との連携による探究活動への参加生徒数</td> <td>6人</td> <td>210人（1年生）</td> <td>—（）</td> </tr> <tr> <td>②大学進学を目的とした3年生の夏期講習への参加生徒数（学年における割合）</td> <td>185人（67.8%）</td> <td>205人（75%）</td> <td>—（）</td> </tr> <tr> <td>③国公立大学の合格者数（学年における割合）</td> <td>64人（24.0%）</td> <td>70人（25.6%）</td> <td>—（）</td> </tr> <tr> <td>③当該年度での初回及び最終回模試における「学習到達ゾーン」の伸び値の合計</td> <td>年度初回模試の値</td> <td>増加（+の値）</td> <td>—（）</td> </tr> <tr> <td>③県内国公立大学合格者数</td> <td>30人</td> <td>35人</td> <td>—（）</td> </tr> </tbody> </table>				成果指標	初期値	目標値	実績（評価）	①授業への取組 2年	23.0%	25%	—（）	1年	30.6%	32%	—（）	①平日学習時間 2年	1.16h	1.5h	—（）	1年	1.51h	1.8h	—（）	①休日学習時間 2年	2.15h	2.5h	—（）	1年	2.63h	2.8h	—（）	③授業で力が 2年	6.7%	7.0%	—（）	ついた実感 1年	5.6%	6.0%	—（）	①国公立大学の受験者数	155人／267人	160人／273人	—（）	②外部との連携による探究活動への参加生徒数	6人	210人（1年生）	—（）	②大学進学を目的とした3年生の夏期講習への参加生徒数（学年における割合）	185人（67.8%）	205人（75%）	—（）	③国公立大学の合格者数（学年における割合）	64人（24.0%）	70人（25.6%）	—（）	③当該年度での初回及び最終回模試における「学習到達ゾーン」の伸び値の合計	年度初回模試の値	増加（+の値）	—（）	③県内国公立大学合格者数	30人	35人	—（）
成果指標	初期値	目標値	実績（評価）																																																													
①授業への取組 2年	23.0%	25%	—（）																																																													
1年	30.6%	32%	—（）																																																													
①平日学習時間 2年	1.16h	1.5h	—（）																																																													
1年	1.51h	1.8h	—（）																																																													
①休日学習時間 2年	2.15h	2.5h	—（）																																																													
1年	2.63h	2.8h	—（）																																																													
③授業で力が 2年	6.7%	7.0%	—（）																																																													
ついた実感 1年	5.6%	6.0%	—（）																																																													
①国公立大学の受験者数	155人／267人	160人／273人	—（）																																																													
②外部との連携による探究活動への参加生徒数	6人	210人（1年生）	—（）																																																													
②大学進学を目的とした3年生の夏期講習への参加生徒数（学年における割合）	185人（67.8%）	205人（75%）	—（）																																																													
③国公立大学の合格者数（学年における割合）	64人（24.0%）	70人（25.6%）	—（）																																																													
③当該年度での初回及び最終回模試における「学習到達ゾーン」の伸び値の合計	年度初回模試の値	増加（+の値）	—（）																																																													
③県内国公立大学合格者数	30人	35人	—（）																																																													
<p><2 取組方法></p> <p>進路課長を委員長とした教職員7名（管理職3名、教務課長、研修課長、進路課員）を構成員とする「コアスクール委員会」を中心に、学年主任と連携を図りながら取り組んでいる。「生徒の主体的、自発的な学習意欲及び学力の向上」「教員の指導力向上」「大学入試改革への対応」「探究学習、ALやICT活用授業の推進」を目標に下記の取組を展開し、魅力ある学校づくりを目指す。</p> <p><生徒の学力向上></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 次代を生きるための進路探究学習（新規） 2 東雲学習会（新規） 3 外部講師による小論文指導（新規） 4 検定チャレンジ（数学マラソン・英語検定） 5 「QU」を活用した学習支援 <p><教員の指導力向上></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業力向上研修（一部新規） 2 ICT活用、アクティブ・ラーニング授業による授業改善（新規） 3 進路指導力向上研修（一部新規） 4 先進校の視察訪問 <p><高大接続改革></p> <p>県内大学等との連携（新規）</p>																																																																

<4 特徴的な取組>

次代を生きるための「進路探究学習」

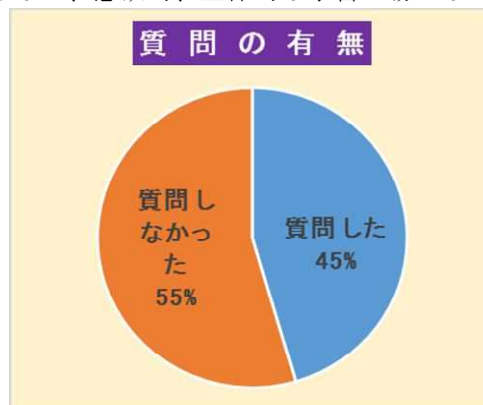
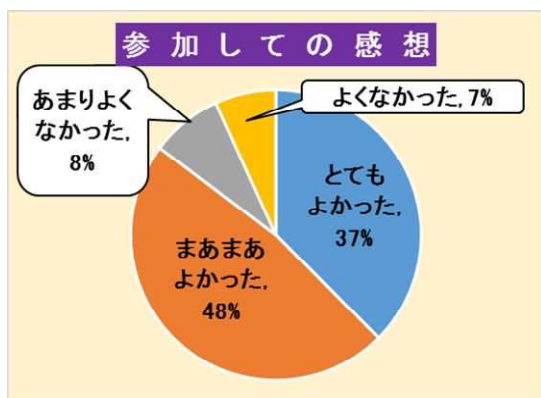
6月28日（木）1年生全員を対象に、キャリア教育講演会を実施した。法政大学情報科学部デジタルメディア学科の藤田 悟 教授を講師に迎え、「人工知能と情報社会～未来の姿を考えてみよう～」と題し、人工知能の現在までの発展と今後予想されるコンピューターが行う労働、人間だけにしかできない業務など、デジタル技術を紹介しながら楽しく説明していただいた。近未来の社会を考え、進路について探究学習を行なう基礎学習となった。夏季休業中に個々に探究活動を行い、レポートにまとめた。9月中旬に実施したグループ探究では、積極的に疑問点を挙げたり、さらにより深く調べたりと、関心と意欲を高めている様子が見られた。職業をどのように選択すべきか、今後の社会はどう変化していくのかなどについても意見が出され、進路や社会情勢にまで思考を深めることができた。11月29日（木）に再び藤田教授をお迎えし、グループ討議の評価と今後の探究学習への方向性など、指導・助言をいただいた後、個人及びグループでの探究を進め、1月～2月にその研究成果をクラスさらに学年で発表会を開催する予定である。



自発的な学習意欲を醸成する「東雲学習会」

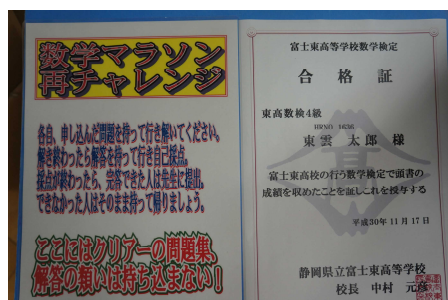
1・2年生を対象に、定期試験前の5日間、放課後から午後7時半まで、冷暖房が完備した東雲館（同窓会館）を「自学自習の場」として開放し、生徒の主体的な学習環境を提供している。地域人材（国語・数学・英語の元教員）に講師を依頼し、生徒の質問に対応している。自主的に足を運んで教授する教員もあり、生徒との関係づくりの場にもなっている。

1学期期末テスト前には、1日平均60～90人が参加し大盛況であった。日が短くなった2学期中間テスト前には、50～60人と減少したものの、落ち着いた環境の下、懸命に取り組む姿が見られた。1学期末に実施したアンケート結果の一部を下記に示す。1回以上参加した生徒（1年生42%、2年生11%）の85%が「参加してよかった」と回答した。また、半数以上の生徒が自主的に質問するなど、意欲的、主体的な学習の場になっていた。



学習意欲・学力向上を醸成！ 本校独自数学検定「数学マラソン」

本校独自の数学検定を始めて今年で4年目を迎えた。この検定を始めたのが本年度一年部学年主任である。ゆえに一際、検定へ思いは強い。数学力の向上を図ることを目標に、数学Ⅰ・ⅡABの問題集から100問を精選し、1、2年生の2年間で1級（100問制覇）の取得をめざす。毎週水曜日の朝、1問ずつ問題にチャレンジする。できなかった場合は、昼休みか放課後に再チャレンジできる。毎週、各学年70～100人のチャレンジャーがあり、例年を上回る人数となっている。1年生ではクラス対抗も行い、互いに競い合い励まし合いながら実力をつけていく協働学習活動にもなっている。合格証書取得を目指して学年全体が盛り上がっている。



- 1級：100問制覇
- 2級：75問制覇
- 3級：50問制覇
- 4級：25問制覇

< 5 成果と今後の方向性 >

2018年の経団連のアンケート調査によると、企業が求める人材の資質・能力の第1位が「主体性」である。しかし、今の高校生にはその主体性が欠如しているという見解が多い。本校のコアスクール（学力向上）では、さまざまな取組を通して、生徒の主体性の育成を図りたい。東雲学習会には1年生を中心に自主的に参加したり、数学マラソンにおいては互いに切磋琢磨しながら再チャレンジしたりと、主体性の表れが見られる。コアスクールの指定を受けたことにより、教職員の指導にも熱が入っているようにも感じる。探究学習、東雲学習会や小論文指導において外部講師を導入した取組を行なっているが、長いスパンで継続できるよう、人材リストの作成も必要である。また、探究学習については3年間のプログラムを年度末までには構築したい。先進校の視察訪問で得たものを、次年度に生かし、更に深化した取組を実施していきたい。

<p><1 テーマ></p>	<p><3 成果指標と実績></p>																																																																																								
<p>中高一貫校及び芸術科設置校の特色を生かした学力向上の取り組み</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">成果指標</th> <th>初期値</th> <th>目標値</th> <th>実績（評価）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">①授業への取組</td> <td>2年</td> <td>38.8%</td> <td>40.0%</td> <td>26.2% (D)</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>28.9%</td> <td>30.0%</td> <td>34.2% (A)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">①平日学習時間</td> <td>2年</td> <td>1.4時間</td> <td>1.6時間</td> <td>1.3時間 (D)</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>1.4時間</td> <td>1.5時間</td> <td>1.9時間 (A)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">①休日学習時間</td> <td>2年</td> <td>2.1時間</td> <td>2.3時間</td> <td>1.9時間 (D)</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>2.2時間</td> <td>2.3時間</td> <td>2.9時間 (A)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">③授業で力が ついた実感</td> <td>2年</td> <td>9.0%</td> <td>10.0%</td> <td>11.0% (A)</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>9.9%</td> <td>12.0%</td> <td>10.0% (C)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">①国公立のべ受験者数</td> <td colspan="2"></td> <td>111人</td> <td>120人</td> <td>一人 (-)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">②外部との連携による探究活動への参加生徒数</td> <td>5人</td> <td>10人</td> <td>5人 (-)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">②大学進学を目的とした補習等への参加生徒数</td> <td colspan="2"></td> <td>90人</td> <td>100人</td> <td>105人 (A)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">③国公立大学の合格者数</td> <td>35人</td> <td>38人</td> <td>一人 (-)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">②外部との連携による探究活動への参加生徒数</td> <td colspan="2">学力到達度調査評価A以上の割合</td> <td>31.6%</td> <td>33%</td> <td>-% (-)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">芸術系四年制大学の合格率</td> <td>66.7%</td> <td>70%</td> <td>-% (-)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">③国公立大学の合格者数</td> <td colspan="2">授業改善研修の教員満足度</td> <td>48%</td> <td>60%</td> <td>56% (C)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">A L を実践した教員の割合</td> <td>55%</td> <td>60%</td> <td>100% (A)</td> </tr> </tbody> </table>				成果指標		初期値	目標値	実績（評価）	①授業への取組	2年	38.8%	40.0%	26.2% (D)	1年	28.9%	30.0%	34.2% (A)	①平日学習時間	2年	1.4時間	1.6時間	1.3時間 (D)	1年	1.4時間	1.5時間	1.9時間 (A)	①休日学習時間	2年	2.1時間	2.3時間	1.9時間 (D)	1年	2.2時間	2.3時間	2.9時間 (A)	③授業で力が ついた実感	2年	9.0%	10.0%	11.0% (A)	1年	9.9%	12.0%	10.0% (C)	①国公立のべ受験者数			111人	120人	一人 (-)	②外部との連携による探究活動への参加生徒数		5人	10人	5人 (-)	②大学進学を目的とした補習等への参加生徒数			90人	100人	105人 (A)	③国公立大学の合格者数		35人	38人	一人 (-)	②外部との連携による探究活動への参加生徒数	学力到達度調査評価A以上の割合		31.6%	33%	-% (-)	芸術系四年制大学の合格率		66.7%	70%	-% (-)	③国公立大学の合格者数	授業改善研修の教員満足度		48%	60%	56% (C)	A L を実践した教員の割合		55%	60%	100% (A)
成果指標		初期値	目標値	実績（評価）																																																																																					
①授業への取組	2年	38.8%	40.0%	26.2% (D)																																																																																					
	1年	28.9%	30.0%	34.2% (A)																																																																																					
①平日学習時間	2年	1.4時間	1.6時間	1.3時間 (D)																																																																																					
	1年	1.4時間	1.5時間	1.9時間 (A)																																																																																					
①休日学習時間	2年	2.1時間	2.3時間	1.9時間 (D)																																																																																					
	1年	2.2時間	2.3時間	2.9時間 (A)																																																																																					
③授業で力が ついた実感	2年	9.0%	10.0%	11.0% (A)																																																																																					
	1年	9.9%	12.0%	10.0% (C)																																																																																					
①国公立のべ受験者数			111人	120人	一人 (-)																																																																																				
	②外部との連携による探究活動への参加生徒数		5人	10人	5人 (-)																																																																																				
②大学進学を目的とした補習等への参加生徒数			90人	100人	105人 (A)																																																																																				
	③国公立大学の合格者数		35人	38人	一人 (-)																																																																																				
②外部との連携による探究活動への参加生徒数	学力到達度調査評価A以上の割合		31.6%	33%	-% (-)																																																																																				
	芸術系四年制大学の合格率		66.7%	70%	-% (-)																																																																																				
③国公立大学の合格者数	授業改善研修の教員満足度		48%	60%	56% (C)																																																																																				
	A L を実践した教員の割合		55%	60%	100% (A)																																																																																				
<p><2 取組方法></p>																																																																																									
<ul style="list-style-type: none"> ・外部機関との連携 (大学生・予備校講師等の活用) (演劇鑑賞・劇場スタッフの講義) (生徒による探究活動への参加) (中高一貫教育・芸術科の研究) (教員による大学等の訪問) (教員による予備校研修会への参加) (大学教員を招いての研修会の実施) ・四年制大学等訪問 (東海大・静岡大・東京藝術大) ・先進校視察 (並木中等教育・麴町中・大泉附属中 ・大宮光陵・埼玉栄) ・授業力向上研修 (予備校や各種研修会への参加) (動画学習システムの活用) 																																																																																									

<4 特徴的な取組>

○大学生を活用した夏季休業中の補習
(7/23~7/30)

高校1年生を対象にした中学英語・数学の復習講座を実施した。30名の申し込みあり、教員の監督のもとで大学生が個別に指導する形で実施した。生徒の感想は良好であった。本校は、中高一貫校のため、中学の3年間で予想以上に学力差が広がるので、成績下位者への早い段階での手当てが必要だと考えた。

[大学生による個別指導]



○劇場スタッフによる講義と演劇鑑賞
(10/10)

新国立劇場においてバックヤード等を含む施設見学及び劇場スタッフによるキャリア教育の視点にたった講義を受講した。舞台芸術の専門的知識と芸術関係の職種の多様性を学んだ。

歌劇「魔笛」を鑑賞した。

作曲:W. A. モーツァルト

全2幕/ドイツ語上演/字幕付

[オーケストラピットを覗く生徒たち]



○難関大学受験セミナー

(9/10, 9/12, 9/14)

授業に対するモチベーションの向上と学習意欲の向上を狙い、本校卒業生(東大生や医学部学生)による特進クラスの2年生に向けて講話と学習指導を実施した。身近な先輩から効率的な勉強の仕方や勉強に対する考え方等を聞き、学び方を学ぶ機会となった。

[卒業生による学習指導]



○地元企業と連携した地域課題(バス停付近ゴミの散乱防止)の克服

(9月～10月の放課後)

地元企業のメセナ活動(企業による社会貢献活動)の一環として資材提供を受け、ゴミ箱を作成した。活用のされやすさと景観にマッチすることをグループで研究し、ゴミ箱の素材や形状を検討して作成設置した。芸術科2年のデザイン専攻生が担当した。

[生徒による作成したゴミ箱の設置]



<5 成果と今後の方向性>

初年度を取組としては、十分な成果が得られたとはいいがたいが、部分的に成果が出ている。効果的な取組を実施するには、十分な準備が必要である。

大学生を活用した事業は、効果的で生徒や教員の評価も高かったが、大学生を募集する段階で校内の役割分担が明確ではなく、混乱が生じてしまった。入念に準備し継続的に実施することが可能ならば、十分な効果が期待できる。

授業力向上研修として教員を予備校等に派遣したが、各教科での事後研修を行う時間を十分に確保することができなかつたため、どのように授業力が向上したかを十分に検証できていない。事後研修を行う時間を確保し、目的意識を高めた上で派遣することが大切であった。同様に先進校訪問で得た情報を全ての教職員に周知する時間を確保することも十分にできず課題として残った。

また、生徒による探究活動への参加など効果が薄かった取組については、スクラップ&ビルドの視点から適切に対応していく必要がある。

さらに、既存の学力向上に係る事業との連携や住み分けを行うことで、より効果的に成果を生むことができるはずである。そのためには、俯瞰的な視点から組織的に計画を準備することが重要だと感じた。

総括的な反省として、生徒や教職員のニーズを広く吸い上げて取組の計画を立てること、そして実施する全て取組の準備や進行管理・事後反省を事務室と連携しながら組織的に行うことが反省点となった。



県立静岡城北高等学校



1 テーマ

深い学びにつながる「社会とのつながりを意識した探究活動」
～学力の3要素は、探究的な学習により育成される～

2 取組方法

- (1) 生徒の学力向上
 - ①探究的な学習の研究 ②思考力を向上させる生徒自己評価の研究
 - ③ICT機器の効果的な活用方法の研究
- (2) 教員の指導力向上
 - ①思考力を向上させる指導方法の研究 ②ICT機器の効果的な活用方法の研究
- (3) 高大接続改革
 - ①学修記録方法の研究 ②調査書・推薦書の記載方法の研究
- (4) 成果の検証

探究的な学習の外部評価の研究
- (5) その他

「社会に開かれた教育課程」の研究

3 成果指標と実績

	成果指標	初期値	30年度目標値	実績(評価)
共通	①授業への取組 2年・1年	25.4%・24.6%	30%・30%	—
	①平日学習時間2年・1年	1.4h・1.6h	1.8h・1.6h	—
	①休日学習時間2年・1年	2.1h・2.5h	2.7h・2.7h	—
	③授業で力がついた実感 2年・1年	5.4%・4.2%	9.1%・8.0%	—
項目別	①国公立大学の受験者数	140人	150人	—
	②外部との連携による探究活動への参加生徒数	0人	284人	—
	②大学進学を目的とした補習等への参加生徒数	2,867人	3,010人	—
	③国公立大学の合格者数	94人	100人	—
学校独自	③社会の出来事に関心を持つ生徒の割合	22.8%	25%	—
	③学習と社会とのつながりを実感する生徒の割合	16.0%	20%	—
	③思考力の平均値	3.00	3.10	—
	③問題解決力の平均値	3.07	3.16	—

4 特徴的な取組

1年生 「社会とのつながりを意識した」探究活動・・・地元静岡について考える



静岡市役所職員による総合計画の説明



グループでテーマを決める



(フィールドワーク)
静岡市内で街頭インタビュー



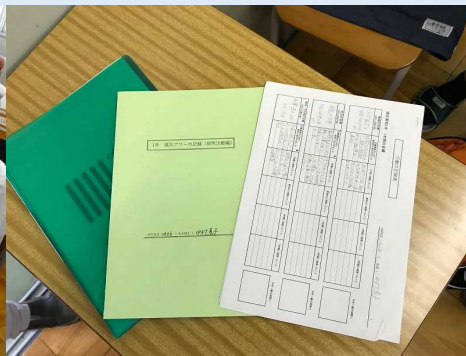
(フィールドワーク)
静岡市役所を訪問して実態調査



(10月10日 中間発表会)
「ここに隠された鮮度」



(10月10日 中間発表会)
「世界とつながるグローバルプラン」



発表の評価を記入して発表者に渡す 個人用ポートフォリオ専用ファイル

探究活動を記録に残す

【その他のテーマ(第1学年67グループの一部)】

- 「静岡市の魅力を県外にどう発信していくか?」「静岡おでんとコンビニ、室蘭、沖縄のおでんの違い」
- 「城北周辺の地域の名前はどのような歴史から由来したのか」「不登校の中学生の力になるために私達にできること」
- 「どうしたらもっと静岡の伝統工芸である藍染を身近に感じることができるのか」「駿府城公園でのプロジェクト」

5 成果と今後の方向性(平成30年10月現在)

- (1) 1年生の探究活動は初めての取組であり、課題はあるものの予定通り進んでいる。2年生については修学旅行を控え、現在取り組み中であり12月末に成果発表会を行う。
- (2) 探究活動やその他の活動実績を紙媒体の個人用ポートフォリオに記録している。今後クラウド上の「Japan e-Portfolio」に登録し、学修の記録を積み上げていく。
- (3) 思考力・問題解決力、社会とのつながりに関する意識については今後、思考力テストと併せてアンケートを実施し、今後の改善に役立てる。



<1 テーマ>

学習指導要領の改訂及び高大接続に対応する指導体制の整備と進学実績の向上

<2 取組方法>

- ・ 学年、分掌、教科等横断型のコアスクール委員会を編成し、校内における指導体制の中核的役割を果たす。
- ・ 本校生徒・保護者・中学生・中学生保護者等を対象に、中央コアスクールセミナーⅠ、Ⅱ、Ⅲ、グローバルコアセミナーを開催して、本校理解促進、魅力発信、情報公開、生徒の学力向上、英語4技能教育推進を実践する。
- ・ 先進高校や大学等への調査訪問や関係する講演会、研究会等にて調査情報収集を行い、学校の課題解決に向けての教員の指導力向上を図る。

<3 成果指標と実績>

成果指標	初期値	目標値	実績(評価)
①授業への取組 2年 28.0% 1年 35.0%		35% 37%	30.8% (B) 33.1% (C)
①平日学習時間 2年 1.8h 1年 1.7h		2.0h 2.0h	1.5h (C) 1.7h (C)
①休日学習時間 2年 2.7h 1年 2.7h		3.0h 3.0h	2.2h (C) 2.6h (C)
③授業で力が ついた実感 2年 6.0% 1年 4.0%		15.0% 15.0%	7.0% (B) 8.4% (B)
①国公立大学の受験者数	171人	180人	()
②外部との連携による探究活動等への参加生徒数	2人	40人	41人 (A)
③大学進学を目的とした補習等への参加生徒	120人	160人	166人 (A)
④国公立大学の現役合格数	102人	110人	()
①進路実現イメージが具体化され学習意欲と進路希望が喚起された生徒		70%	76% (A)
①難関大受験のための学習方法等へのイメージを持つことができた生徒		70%	()
②コアスクールセミナーの実施回数		5回	7回 (A)
③実用英語技能検定2級・準2級の受験者数・合格者数	71人 51人	300人 100人	304人 (A) 1次合格 218人 10月31日現在
④センター試験5教科6科目型受験者数	204人	220人	198人 (C)
②難関大、ブロック大等の受験者数と合格数	28人 11人	35人 15人	()

<4 特徴的な取組>

グローバル中央セミナー

○福島県ブリティッシュヒルズへ65人の生徒を派遣して、英語4技能を發揮しながら、異文化理解活動を行った。研修の満足度は満足93%、だいたい満足6%。「英語を学ぶのがこんなに楽しいとは思わなかった。」

「今まで苦手だった英語を克服するため学習方法を変えようと思う。」

(生徒の声)

○英検準1級・2級・準2級の受験者数300人以上を達成。



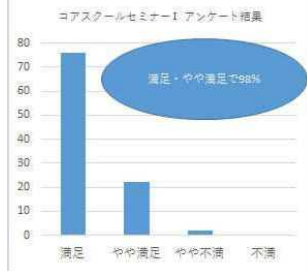
探究的学びを育む中央セミナー

7月6日(金)静岡大学工学部山極教授を招き、「静岡県の宇宙開発技術の紹介と技術者をめざす高校生に期待すること」を聴講した。技術者を志す80人の生徒が熱心に聞き入った。



コアスクールセミナーⅠ

7月28日(土)、焼津文化会館にて3年生を対象に、外部講師によるセンター試験対策の要点や方法、教材、学習スケジュール等を主な内容とした英・数・国の学習会を行った。アンケート結果：満足・やや満足で98%。「これからどのように勉強をしていけばいいかを知ることができた。不安が軽くなりました。」(生徒の声)



コアスクールセミナーⅢ

○学校公開日(11月10日(土))の中で、本校の取組を紹介した。特に、夏に参加したブリティッシュヒルズにおける貴重な英語研修の報告を充実させ、中学生に紹介した。
○3年生に対して保護者会(11月30日(金))を実施した。大学教授を招いて、地方国立大学の魅力を語っていただき、さらに、島根大学、徳島大学、新潟大学に進学した卒業生からのビデオレターを上映した。また、卒業生の親にも講演をしていただき、当時の親の心境を語っていただいた。

保護者コアスクールセミナー(2年生対象)

2月14日(木)、2年生と保護者を対象に、3年0学期における心構えや今やるべきことについて外部講師による講演を聴き、進路実現への意欲を高める予定。



ミニ進路講話(1年生対象)

10月25日(木)、本校卒業生・保護者等、本校に関係のある方々を講師に招き、様々な職業の楽しさ、厳しさなど生の声を聞き、生徒自身の職業や進路を考える機会とした。



一日体験入学における中学生保護者説明会

8月7日(火)の中学生一日体験入学で中学生の保護者に対し、変化する大学入試に対する本校の特徴的な取組(①Classiの導入 ②校外研修や大学説明会等の外部でのアプローチ ③Active Learningを中心とした授業改善)について紹介した。

コアスクールセミナーⅡ

11月30日(金)、12月10日(月)、11日(火)の3日間、外部講師による英・数・国の国公立2次試験対策の学習会を行った。最新の傾向と対策を話していただくことで、センター試験後の学習についてイメージを掴む機会となった。

コアスクールセミナーⅣ

○3月20日(水)、焼津文化会館にて2年生を対象に、外部講師によるセンター試験の要点や教材、学習スケジュール等を主な内容とした英・数・国の学習会を行う予定。
○3月22日に校内で実際に、平成31年センター試験の問題に挑戦する日程を設定しているため、春季休業中に講義と実践の両方で学ぶ機会を得るために予定している。

大学模擬授業(1・2年生対象)

12月6日(木)、大学の教授・講師を招き、志望する系統学部の体験授業を受講することにより、進路意識を高め、高校時代に学んでおくべきことを考える機会とする。

<5 成果と今後の方向性>

本校のコアスクール事業の成果として「英検の実績」がすでに目標値を上回る大幅な増加を見た。また、「進路イメージが形成された生徒」もすでに目標値を上回っている。「授業への取組」は、1年生に関しては初期値を上回り増加傾向にある。「平日・休日の学習時間」については、2年生は休日の学習時間が減少傾向にある一方、平日の学習時間は増加傾向にある。これは、学習習慣が身につき始めている反面、部活動の活動時間が長くなってきた時期にとられたアンケートだということも関係していると思われる。1年生は、平日は初期値のまま、休日は0.1時間の減少を見た。今後の指導を強化していく必要がある。「授業で力がついた実感」については、2年生で1%、1年生で4.4%の値の上昇が見られた。今後も最終的な目標値の実現に向けて取組を加速させたい。「進学実績」については、今後その成果が計られることになる。

コアスクール事業の今後の方向性としては、「低学年(入学時)指導プランの作成」や、3年間を通じた「進路指導のロードマップ」を固めていく必要がある。これを単なるマニュアル化にとどめるのではなく、担当教員の不安を軽減するものであり、かつ、指導への情熱を喚起させるものであるものでなければならぬと考えている。

